

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第158版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家総本家 聴福庵

おりじなる どれっしんぐ

<ul style="list-style-type: none"> ・さらだあぶら ・ごまあぶら ・おりーぶおいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・しお ・しょうゆ ・こんそめ ・けちやつぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・かれーこ ・こしょう ・がーりっく ・ぼうだー
<ul style="list-style-type: none"> ・おす ・さとう 		

★きいろ・あお・あかから1つずつえらんでね★

子どもたちの自由な発想で組み合わせられた様々な種類のドレッシングが、給食に登場したそうです！

5歳児のマイスターが作ったドレッシング②

ちゃんみたいになりたい！と、年下の子たちも普段より食が進み、マイスターの子は憧れの存在でもありと仰っていました。

三茶こだま保育園様が食育のアドバイザーを受けている食楽BNS株式会社に「マイスター」の取り組みを話したところ、「すごい取り組みをしていますね！園の中だけではなく、この取り組みを多くの方に知ってもらえたら！」と商品化の動きに繋がっていったと言います。

前号から引き続き、三茶こだま保育園様の実践についてです。毎週金曜日の週案会議の際、翌週1週間分の給食を保育士の先生方と確認をし、クッキングでこんなことができるよ！こんなことはできる？と確認の場を設けているそうです。

0・1歳クラスであれば「触る・ちぎる・洗う」のようにそれぞれの年齢に合った選択肢を用意し、毎日のクッキングの時間に様々な取り組みをしていると言います。その中の一つにドレッシング作りがあり、これま

では先生方が予め用意しておいた材料を子どもが「加える」「混ぜる」ことはあったそうです。給食にサラダがある日は、ドレッシングを作る元となる材料は先生方が用意し、「マイスター」の子にこれまで行っていたいなかった調味料を「組み合わせる」ことをしてもらったそうです。マイスターの子が味見をし、OKが出るとその日の給食のサラダにかけ皆が食べるそうです。子どもたちからは、「●ちゃんが作ったの!？」「おいしいー!」自分も●

商品化の話が挙がってから約1年。卒園までに間に合うよう、子どもたちや保護者にはサプライズで準備が進められ、3月の最後の登園日にお渡ししたそうです。市販のドレッシングをあまりかけて食べない子も、園で作ったドレッシングはよく食べると保護者から聞くようです。栄養士の先生にこの点についてお聞きすると、「子どもたちの味覚に合った味だからですかね？」と仰っていました。

「コロナ禍ではじまった取り組みにより、初年度は1人のマイスターが誕生し、2年目は2人のマイスターが園内で活躍。子どもたちの中で伝承



今日のドレッシングはどんな味になるかな!?

され、今年も「食レンジャーノート」(前号参照)に取り組みむ子たちがいるようです。「今年も取り組んでいる子たちがいるので、油の種類を増やしてみたり、選択肢を増やしたいと思っています」と言います。「食事は一生のことなので、子どもの頃から食の取り組みを通して、大人になった時に自分で選択できるよう育てて欲しいです」と、先生が大切にされている想いも語って頂きました。

先日、新宿せいが子ども園様に伺わせていただくと、今までの一時保育の部屋が『musubime』という一時保育だけではなく、地域支援の役割になった場所にリニューアルされ、オープンされていました。

musubime (むすびめ)

保育室のゾーンやコーナーといった環境によって様々な子どもたちが主体的に関わり合い、子ども同士の関係性の中で育ち合っていくことと同じように、保育園という環境もまた地域の様々な人々が主体的に関わり、助け合いながら育っていく役割を備えているのだと感じました。そしてそれは、新宿せいが子ども園の「共生と貢献」という理念の実践であり、「見守る保育」の考え方と一貫したものであるように思います。

人と人が共生しあい、貢献しあえる環境づくり。子どもたちの未来を紡ぐ大切な取り組みだと感じました。



地域の子育て、保育の中心施設としての役割だけでなく、子どもを中心に人と人との結び目となっていくこと。地域にとって必要不可欠な役割であることを学びました。

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

コロナ禍の協力体制



改善を重ねた配線図を見たい！という方はご一報を！

「備えあれば憂いなし」と言うように、何事にも備えが必要だと分かっているにも、実際に行動に移すことはついつい後回しにしてしまいがちです。コロナ時代の今では、いつ誰が休んでも大丈夫なよう、いつも以上に備えや想定が必要なのだと、少数で働いている私たちは痛感させられることが多くなっています。先日も一人のクルーが休まなければ

ばならなくなりましたが、助け合う気持ちはあっても備えが万全でなかったために、体調が悪くなってから仕事を引き継ぐのは本人にとっても他のクルーにとっても大変な作業となっていました。

また、ギビングツリー主催のセミナーでは、事務局として会場にてオンラインの受付とオンライン配信を同時に行っています。主に機器に詳しいクルーが配信作業を行っています。そのクルーが体調を崩すと代わられるクルーが誰もいない状況に...。そんな状況を危惧し、他のクルーにも常に最新の配線図を共有し、また会場へ出向きリハーサルを何度も入念に行うことで、万が一に備えることにしています。

安心して休み、安心して代わられるよう、仲間のために備えを行動に移し、助け合っていきたいと思っています。

日本の智と慧

「は」「か」「お」

前号で「相手を想う時間としての手紙」の話を書きましたが、いざペンを取って書くこうとすると、既に漢字が出てきませんね。パソコンやスマホを使えば、言葉の候補が出てきますから選べばいいだけです。入力した文字は記憶されますから、次からは頭文字だけで優先的に表示されます。このように全文をすべて入力しなくても文章ができてしまう機能は、日常の実務においては本当に便利です。しかし、例えば、感謝を伝えたいメールや最近であればコロナで苦しんでいる人へのお見舞いの

メールとなると、この便利さはちょっと考えてしまいます。実際スマホで「は」「か」「お」と順に入力すれば「早い回復をお祈りします」という一文ができてしまいます。それでも一応気持ちは伝わるかもしれませんが、漢字の深みや「その日本語」を味わいながら書くという実感は段々と薄れつつあります。「自分で書かない」時代になっても、時には表示機能に抗って、自分の言葉で全文を心を込めて入力してみましようか。



大切な人へのメールは、手書きの姿勢を忘れずに丁寧に言葉を選びながら心で綴ってみましようか。

一期一会庵

むかしの作法

先日、千葉と福岡にあるむかしの田んぼで稲刈りを行いました。今年のは過去最大の収量があり、御蔭様に社員一同みんなで感謝しました。

現在、ほとんどの田んぼでは機械を使い化学肥料や農薬で便利に稲が育ちますが、むかしの田んぼではその便利には育ちません。目に見える物質的な収穫が多いか少ないかで一喜一憂するものですが、むかしの田んぼでむかしの作り方の場合は目に見えない心の収穫が非常に豊かであるということに気づかされます。

この作り方というのは、別の言い方では「作法」ともいいます。作法とは、「人間が心地よく暮らしていく知恵」という意味があるといえます。何かに取り組みするとき、それをどのような作法で取り組むかで、暮らしそのものの豊かさも変わるといいます。作法といえ、有名なのはお茶の世界です。他にも、永平寺などでも食事の作法を道元禅師が記しているそれを僧侶たちは暮らしをとおとすのえています。別の言い方では、作

法は礼儀作法というように礼儀がセットです。マナーや挨拶をはじめ、年中行事などでもこの礼儀作法は大切にされています。先人たちは暮らしをとおとすのえいくことで真の豊かさがあることに気づき、暮らしの作法を実践してきたということ。先ほどのお米でいえば、むかしの人はお米を単なる食べ物とは思っていませんでした。今では機械で全部やって人はほとんど田んぼに入りませんし、ドローンなどで田植えするところもあるそうです。現代は先ほどのような作法を重視するよりも利便性が優先されています。しかし人間は食べるものでできていますから何を口に入れるか、どのようなものを食べるかが真の豊かさや仕合せを決定づけるように私は思います。

有難いことに私たちのむかしのお米を食べていただける方から、いつもとても美味しいと喜び感謝されます。その喜びの中に、私たちが楽しく豊かにお米をつくっている循環のむかしの作法が入っていることが伝わったのではないかといつも感じています。先人たちが稲を遺して伝承してくださったことに深く感謝して、『暮らしフルネス』を通してこれから訪れるお月見や新嘗祭を心から楽しみたいと思います。

編集後記



私たちの取り組みや思いなど「SDGsなプロジェクト」としてご紹介頂きました！よろしければご覧下さい。

先日、地元の中学生と一緒にゴミ拾いを行いました。最近はこの影響で、中学生も地域との関わりを持っていないことから実現したこの取り組み。こうして皆で地域や故郷をお手入れすることは、自分の心や町が整うのは勿論、地域との関係をいったり、自分たちの町を行政に頼りきることなく良くし

ていけることを知れたりする意味でも、大事な機会だと感じました。保育やまちづくり、古民家再生、ブロックチェーン、場づくりなど分野にとらわれず働かせて頂いています。改めて、子どもたちや私たち大人の中にある子ども心ワクワク憧れるような働きを大事にしたいと思っています。(宮前)

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台) 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17 東京堂神保町第3ビルディング8階 tel.050-1744-8823 fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17 東京堂神保町第3ビルディング8階 tel.03-3518-6217 fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致 暮らしフルネスについて

